

数学演習第二 (演習第7回)

線形：座標, 行列の零空間・行空間・列空間

2024 年 11 月 20 日

要点

〈基底によるベクトルの座標〉 (線形教科書 pp. 119–120)

ベクトル空間 V の基底 $\mathcal{B} = (b_1, \dots, b_r)$ に対して, 各 $v \in V$ は $b_1, \dots, b_r$ の 1 次結合で 1 通りに表される:

$$v = c_1 b_1 + \dots + c_r b_r = (b_1, \dots, b_r) \begin{bmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_r \end{bmatrix}.$$

このとき一意に定まる列ベクトル $\begin{bmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_r \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^r$ を v の基底 $\mathcal{B}$ に関する**座標**といい, $[v]_{\mathcal{B}}$ で表す. V が

数ベクトル空間 $\mathbb{R}^n$ (の部分空間) であれば, 座標 $[v]_{\mathcal{B}}$ を求めるには非同次連立 1 次方程式

$$\underbrace{\begin{bmatrix} b_1 & \dots & b_r \end{bmatrix}}_{n \times r \text{ 行列}} \begin{bmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_r \end{bmatrix} = v$$

を解けばよい.

〈行列の零空間・行空間・列空間〉 (線形教科書 pp. 107, 130, 132)

$$m \times n \text{ 行列 } A = \underbrace{\begin{bmatrix} r_1 \\ \vdots \\ r_m \end{bmatrix}}_{\text{行ベクトル分割}} = \underbrace{\begin{bmatrix} c_1 & \dots & c_n \end{bmatrix}}_{\text{列ベクトル分割}} \text{ に対して,}$$

A の**零空間** $N(A) := \{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax = 0\}$ (同次連立 1 次方程式 $Ax = 0$ の解全体が作る $\mathbb{R}^n$ の部分空間)

A の**行空間** $R(A) := \langle r_1, \dots, r_m \rangle$ (n 次行ベクトル $r_1, \dots, r_m$ で生成される $\mathbb{R}^n$ の部分空間)

A の**列空間** $C(A) := \langle c_1, \dots, c_n \rangle$ (m 次列ベクトル $c_1, \dots, c_n$ で生成される $\mathbb{R}^m$ の部分空間)

ただし, $\mathbb{R}_n$ は n 次行ベクトル全体が作るベクトル空間を表す. このとき, 次が成り立つ.

- $\dim N(A) = n - \text{rank } A$, $\dim R(A) = \dim C(A) = \text{rank } A = \text{rank } {}^t A$. (教科書 命題 19.2, 19.9)
- $R(A)$ は A を行基本変形しても変わらない (教科書 補題 19.4) ので, 行基本変形して, 簡約行列の主成分を含む行ベクトルを取れば $R(A)$ の基底になる.
- A に行基本変形を行うと $C(A)$ は変わってしまうが, 列ベクトルの間に成り立つ 1 次関係式は保たれるので, A の簡約行列の主成分を持つ列に対応する 元の A の列ベクトルを取れば $C(A)$ の基底になる. 別の方法として, $R({}^t A)$ の基底を計算し, それらの転置を取ってもよい. これは A を列基本変形して (列に関する) 簡約行列の主成分を含む列ベクトルを取ることに他ならない.

〈共通部分と和空間に関する次元公式〉 (線形教科書 p. 134)

ベクトル空間 V の部分空間 W_1, W_2 に対して, 次の等式が成り立つ:

$$\dim(W_1 + W_2) = \dim W_1 + \dim W_2 - \dim(W_1 \cap W_2).$$

例題 1 $\mathbb{R}^2$ の基底 $\mathcal{B} = \left(\mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix} \right)$ に対して, $\mathbf{v} = \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$ の基底 $\mathcal{B}$ に関する座標 $[\mathbf{v}]_{\mathcal{B}}$ を求める.

$$[\mathbf{b}_1 \quad \mathbf{b}_2 \quad \mathbf{v}] = \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 2 & 4 & 0 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix}$$

より, 基本変形後の列ベクトルの間の関係式を考えると, $\mathbf{v} = 2\mathbf{b}_1 - \mathbf{b}_2$ が分かる. よって $[\mathbf{v}]_{\mathcal{B}} = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \end{bmatrix}$.

例題 2 $A = \begin{bmatrix} 1 & 4 & 7 \\ 2 & -1 & 5 \\ -2 & 3 & -3 \end{bmatrix}$ を行基本変形すると $\begin{bmatrix} 1 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$ (A の簡約行列) となる. よって, $N(A)$ の基

底の 1 例として $\left(\begin{bmatrix} -3 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \right)$ が取れる. また, $R(A)$ の基底の 1 例は, 簡約行列の主成分を持つ行を取っ

て, $([1, 0, 3], [0, 1, 1])$. $C(A)$ の基底の 1 例は, 簡約行列の主成分を持つ列に対応する元の列ベクトルを見て $\left(\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ -2 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 4 \\ -1 \\ 3 \end{bmatrix} \right)$ が取れる.

【注】 行ベクトルでは, しばしば成分をカンマで区切って表す (特に数が成分の場合). 例えば, 上では $[1 \quad 0 \quad 3]$ の代わりに $[1, 0, 3]$ と書いた.

例題 3 $\mathbb{R}^3$ の 2 つの部分空間

$$W_1 = \left\langle \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle, \quad W_2 = \left\langle \mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 5 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle$$

に対する和空間 $W_1 + W_2$ と共通部分 $W_1 \cap W_2$ を考える. 行基本変形により,

$$[\mathbf{a}_1 \quad \mathbf{a}_2 \quad \mathbf{b}_1 \quad \mathbf{b}_2] = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 5 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 & -\frac{1}{2} \\ 0 & 0 & 1 & \frac{1}{2} \end{bmatrix}.$$

行基本変形によって列ベクトルの間の 1 次関係式や 1 次独立性は保たれるので, 簡約行列を見て $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{b}_1$ は 1 次独立で, $W_1 + W_2 = \mathbb{R}^3$ となっていることが分かる ($(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{b}_1)$ は $W_1 + W_2$ の 1 つの基底). また, $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ は 1 次独立で, $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2$ も 1 次独立であることが分かる (簡約行列の対応する列ベクトルを見る). よって, $\dim W_1 = \dim W_2 = 2$ であり, 次元公式から $\dim(W_1 \cap W_2) = \dim W_1 + \dim W_2 - \dim(W_1 + W_2) = 2 + 2 - 3 = 1$ となる. さらに, 簡約行列から, 非自明な 1 次関係式

$$\mathbf{a}_1 + \frac{1}{2}\mathbf{a}_2 - \frac{1}{2}\mathbf{b}_1 + \mathbf{b}_2 = \mathbf{0} \quad \text{すなわち} \quad 2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2 - \mathbf{b}_1 + 2\mathbf{b}_2 = \mathbf{0}$$

が読み取れる. これは $2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2 = \mathbf{b}_1 - 2\mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{bmatrix} \in W_1 \cap W_2$ を意味する. $\dim(W_1 \cap W_2) = 1$ だっ

たので, $\left(\begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{bmatrix} \right)$ が $W_1 \cap W_2$ の基底となる.

【別法】 $W_1 \cap W_2$ の基底については次のように考えることもできる. $W_1 \cap W_2$ の任意のベクトル $\mathbf{x}$ は $\mathbf{x} = c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 = d_1\mathbf{b}_1 + d_2\mathbf{b}_2$ の形に書ける. このとき, $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 + (-d_1)\mathbf{b}_1 + (-d_2)\mathbf{b}_2 = \mathbf{0}$ で

あるから, 上の基本変形から $\begin{bmatrix} c_1 \\ c_2 \\ -d_1 \\ -d_2 \end{bmatrix} = \frac{t}{2} \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix}$ が得られ, $2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2 (= \mathbf{b}_1 - 2\mathbf{b}_2)$ が $W_1 \cap W_2$ を生成することが分かる. よって, $(2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2)$ が $W_1 \cap W_2$ の基底となる. (次元公式は用いていない.)

演習問題

1 $\mathbb{R}^3$ の標準基底 $\mathcal{E} = \left(\mathbf{e}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{e}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{e}_3 = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \right)$ および次の2つの基底を考える:

$$\mathcal{A} = \left(\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} -2 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \right), \quad \mathcal{B} = \left(\mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 4 \\ 5 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_3 = \begin{bmatrix} 3 \\ 5 \\ 6 \end{bmatrix} \right).$$

(1) $[\mathbf{b}_1]_{\mathcal{E}}, [\mathbf{b}_1]_{\mathcal{A}}, [\mathbf{b}_1]_{\mathcal{B}}$ を求めよ.

(2) $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3$ の基底 $\mathcal{A}$ に関する座標 $[\mathbf{u}]_{\mathcal{A}}$ が $\begin{bmatrix} p \\ q \\ r \end{bmatrix}$ のとき, $\mathbf{u}$ の基底 $\mathcal{E}$ に関する座標 $[\mathbf{u}]_{\mathcal{E}}$ および基底 $\mathcal{B}$ に関する座標 $[\mathbf{u}]_{\mathcal{B}}$ を求めよ.

2 $\mathbb{R}^3$ の部分空間 $V = \left\langle \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \\ 3 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} -3 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle$ と V の基底 $\mathcal{A} = (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2)$ を考える. このとき,

$\mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} -6 \\ 5 \\ 13 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 4 \\ 3 \\ k \end{bmatrix}$ (k は定数) が V に属するかどうかを調べ, V に属するならば基底 $\mathcal{A}$ に関する座標を求めよ.

3 $\mathbb{R}^4$ の部分空間 W_1, W_2 を次のように定める:

$$W_1 = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid 2x + 3y + z = 0 \right\}, \quad W_2 = \left\{ \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid \begin{array}{l} \text{連立1次方程式} \\ \begin{cases} x + 4y + 3z = a \\ 2x + 3y + z = b \\ 3x + 5y + 2z = c \end{cases} \\ \text{が解をもつ} \end{array} \right\}$$

(1) W_1 の基底と次元を求めよ.

(2) W_2 は行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 4 & 3 \\ 2 & 3 & 1 \\ 3 & 5 & 2 \end{bmatrix}$ の列空間となる. この事実に着目して, W_2 の基底と次元を求めよ.

(3) 上で求めた W_1, W_2 の基底に含まれるベクトルから $W_1 + W_2$ の基底を選び, その次元を求めよ.

(4) $W_1 \cap W_2$ の基底と次元を求めよ.

4 $\mathbb{R}^4$ の部分空間 W_1, W_2, W_3 を次のように定める.

$$W_1 = \left\langle \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ -5 \\ 2 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix} \right\rangle, \quad W_2 = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^4 \mid \begin{array}{l} 2x + 3y + z - w = 0 \\ x + 2y - z + 2w = 0 \end{array} \right\},$$

$$W_3 = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^4 \mid 2x + y - 3z + w = 0 \right\}$$

(1) W_2 の基底と次元を求めよ.

(2) $W_1 + W_2, W_1 \cap W_2$ について, 基底と次元を求めよ.

(3) $W_2 + W_3, W_2 \cap W_3$ について, 基底と次元を求めよ.

5 $A = \begin{bmatrix} -3 & 5 & 1 & 3 & 9 \\ 1 & 0 & 3 & 1 & 2 \\ 2 & -1 & 4 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 1 & -1 & -1 \end{bmatrix}$ とする.

- (1) A の零空間 $N(A)$, 行空間 $R(A)$, 列空間 $C(A)$ について, 基底と次元を求めよ.
 (2) tA の零空間 $N({}^tA)$, 行空間 $R({}^tA)$, 列空間 $C({}^tA)$ について, 基底と次元を求めよ.

レポート課題

- 答だけでなく, 計算の過程も書いて下さい. (A4 用紙 1 ~ 2 枚にまとめ pdf ファイルに変換して提出)
- 授業に出席し, レポートを授業翌日までに **WebClass に提出** して「出席」となります.

I $\mathbb{R}^3$ の 2 つの部分空間

$$W_1 = \left\langle \mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ 5 \\ 7 \end{bmatrix} \right\rangle, \quad W_2 = \left\langle \mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 4 \\ 7 \\ 9 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{bmatrix} \right\rangle$$

と, W_1 の基底 $\mathcal{A} = (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2)$ および W_2 の基底 $\mathcal{B} = (\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2)$ について次の問いに答えよ.

- (1) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2$ の中のいくつかのベクトルを並べて $W_1 + W_2$ の基底を作れ. また, その基底を $\mathcal{C}$ とするとき, 残ったベクトル ($\in W_1 + W_2$) の基底 $\mathcal{C}$ に関する座標を求めよ.
 (2) $W_1 \cap W_2$ の 1 つの基底を求めよ. また, その基底を作るベクトル ($\in W_2$) の基底 $\mathcal{A}$, 基底 $\mathcal{B}$ に関する座標をそれぞれ求めよ.

II 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 3 & -2 & 1 \\ 2 & -4 & 1 & 4 \\ 1 & 5 & -3 & 3 \\ 1 & -1 & 0 & 2 \end{bmatrix}$ を行基本変形により簡約行列まで変形し, それを利用して A の零空間

$N(A)$, 行空間 $R(A)$, 列空間 $C(A)$ のそれぞれについて, 基底と次元を求めよ. ただし, 基底をなすベクトルは整数を成分とするように選ぶこと.